

第2回倉敷市総合計画審議会 第5分科会議事録（要旨）

会議名称		第2回 倉敷市総合計画審議会 第5分科会（SDGs・市民協働・コミュニティ・行財政）
開催日時		令和2年1月24日(金) 10:00～12:00
開催場所		倉敷市役所5階502会議室
出席者 ※敬称略	審議会 委員	井上 峰一, 岡崎 真宏, 斎藤 武次郎, 武則 啓子, 新垣 敦子, 平井 俊光, 三村 聡
	市職員	企画財政部部長, 企画財政部参事, 総合計画策定研究班員ほか担当 部署職員, 事務局
関係者	関係者	委託事業者
傍聴者	傍聴者	なし
会議次第		1 開会 2 現況説明 3 意見交換 4 その他 5 閉会

1. 開会

2. 現況説明

(事務局が資料を説明)

3. 意見交換

分科会長

人口減の社会で、子どもがいなくなり、高齢者は当面増えていく。国は国債を大量発行しているが、今後の財政はどうなるのか。和歌山市の水道など社会インフラの老朽化も問題で、建物も同様。インフラをいかに維持していくのか。これまでは市の力、国や県も含めて公の力でできていたが、今後は、市民協働や自助、共助に変えていく視点がどうしても必要になってくる。しかし、都市の持続可能性、本当の意味のSDGsについて、たとえば2030年をゴールにしながら、この総合計画の10年と併せて、何を描いていくのかを真剣に議論して、総合計画という形で具現化して市民の方にお示しする必要があると思う。

大学生のアンケートにもあったが、岡大では卒業生の県内への就職率を上げる取組をしている。倉敷市は、全国の都市の中でも魅力ある都市として、全国で金沢市、松山市と比較された。金沢市は観光や周辺の温泉等で昼も夜も長時間滞在できる。松山市は道後温泉があって宿泊が多い。倉敷市は、人は呼び込んでいるが、宿泊が少なく、滞在時間が短い。

60歳以上になると倉敷市に帰ってくる人が多いが、まちのよさを知っているからだ。それを若者にも知ってもらうことが必要。就職では、倉敷市は良い企業が多くあるので、後押しをしていくこと。

倉敷の強みや弱みも含めて、この総合計画では、本気で元気が出るような仕組みを作っていくという覚悟で取り組んでほしい。

委員

倉敷は自慢できる都市だ。一番大事なのは、新しい雇用をどのように作っていくか、みんなで真剣に考えていかないといけない。

たとえば、商工会議所では、宇宙産業推進として、水島コンビナートで様々な情報をいれながら、最終的にはロケットを飛ばそうではないかと。とにかく新しい雇用を考えるため、動いているところだ。

分科会長

ここ数年間でICT、IOT、AIなど未曾有のスピードで進化している。対して、水島にはコンビナートがある。経団連もSDGsに力を入れているし、地域の連携という話もある、最先端技術をけん引していく軸も必要。総合計画なので将来像で希望がなければいけないと思う。

委員

水島コンビナートに優秀な若者が都市部から多く来ているので、定住化をしっかりとアプローチしていくべきだ。もう一つ、やはり根の部分は子どもたちなので、郷里そのものを誇りに思うような教育を市ぐるみで行うことが大事だ。

一方で、教育の部分は大変重要で、人口減の時代、学校が多過ぎると思うが、より質の高いものをしっかりと整備し直したらどうかと思う。そこのバランスをしっかりとる必要がある。

分科会長

質の維持をどうしていくかが重要。業務の効率化の話や Society

	<p>5.0, SDGs でもあったが、マイナンバーカードがあれば住民票がコンビニで取れる時代で、スマホのアプリで何でもできる。人員や労働人口が減る中で、今までのような仕事の仕方ではなく、行政の IT 化等で、限られた人員の中でどれだけやっていくかだ。インフラの老朽化などもあり、いろいろな組み直しを市民の方々が主役になって一緒にやっていく流れを作ること、再編が大切。</p> <p>全体の中をダウンサイジングしながら、いるものは戦略的に整備する、ここで失敗すると、その後 20 年先が大変なことになる、そのぐらい大切な総合計画の位置付けになってくると思う。</p>
委員	<p>やはり倉敷のポテンシャルで、学生アンケートでは住みたいまちという回答も多かった。また、雇用の話では、働き続ける場所があるのが課題。一度出ていった学生や若者など、まさに生産年齢人口の方々に帰ってきてもらえるよう、いろんなバリューを上げていくことが非常に大事だ。</p> <p>人口が減少していっても、生産性を上げ、仕事の質を変えていくこと、たとえば事務的な部門をなるべく減らし、外へ出て、市民や現場の声を聞いて課題解決につなげることが必要だと思う。その中で、今までガラパゴス化していた仕事が本当にやるべき仕事なのか整理して、これから成長する、やらなければいけない仕事に人を投入していくことがとても大事だ。</p>
委員	<p>インフラもどこに投資するのか、スマートシティという話には、中山間部はどうなるということもある。倉敷は、大都市へ人が出て行っても、医療の充実など、他のエリアから人が来る吸引力があり、集中した投資もとても大事だ。</p>
分科会長	<p>倉敷市の強みは、中心部では美観地区と 2 つの大きな病院だ。メリハリをどうつけるのか。</p> <p>岡大では、文化系から医学系まですべての学部で、SDGs を共通言語として、取り組んでいる。自治体も経済界もみんな SDGs に取り組んでいる。目指すところのゴールを一緒に見据えるための共通言語として、市、経済界、大学など、みんなが SDGs を見ながら議論ができればよいと思う。高梁川流域圏でも同じだ。</p>
委員	<p>流域の首長が、しっかりとコミュニケーションをとって、政治的な政策ができていくかがどうかが大変重要。そうしないと話が前に進まない。</p> <p>また、市内には 3 つの商工会議所と 2 つの商工会があるが、在り方を真剣に考えないといけない時期だと思う。</p>
分科会長	<p>経済団体の再編や大学の再編など、時代として何が起こっても不思議ではない。その中で、国が言うような生産性革命も考えなければいけない。</p>
委員	<p>基本的には、東京以外の地方自治体は、大変厳しい時代がきていると思う。その中でも倉敷市は少なからず可能性は持っていて、今の私たちは、子どもたちへの投資をしていく必要があるのではないかと。そして、特徴的な政策で、市民に支持を得られないといけない。</p> <p>公共施設と公共サービスの在り方を大きく見直す必要がある。公共</p>

施設は移転すると跡地利用を求められ、結局、維持しなければならない財産が増えていくという課題がある。売却して民間の新たな投資を生み出すことが大前提ではないかと思う。また、公共施設が多過ぎて、維持管理費の割合があまりにも高い。ある意味、合併のデメリットで、まずは公共施設の再配置が必要だ。

今、施設の複合化、例えば三つの施設を一つにしようとしているが、人口が増える地区と減る地区で、もともと人口が多い地区は、施設も多く、建替え、複合化する。しかし、もとは人口が少なく、どんどん増えてきた地区は、そもそも施設がないので、統合化、複合化もできず、新たな施設もできない。人口の分布と公共施設の配置がミスマッチではないかと思っている。

昔のように市役所の駐車場が満車になることもなくなり、来庁者が減っている。公共サービスを提供する場所の工夫として、たとえば、各小学校区に1つの行政サービスセンターを設置し、公民館だとか様々な機能を集約し、災害時の防災機能ももたせてはどうか。公共サービス提供のあり方も考えるべき。公務員ではなく、民間に任せられる部分はある。縦割りでコミュニティへ補助金をだしているが、住民側は、それぞれの会を作って、総会をして、会計をして・・・と管理運営が大変。小学校区にサービスセンターを置いて、地域の人を雇用して地域づくりの核にしてはどうか。公共施設と公共サービスの在り方を抜本的に変え、サービス提供をしながら、行政サービスコストを下げることが必要だ。

分科会長

非常に具体的な改革のご提案だ。これまで、小学校区を基本単位としてコミュニティの形成が進んできた経緯があり、それをベースにコミュニティ協議会が組成されてきた。今のような議論も含め、全体の経費の節減や民間活力、アイデアを生かしていくような仕組みが必要ではないか。

委員

婦人会や地域活動をしているが、若い人は会費を払ってまで入らない。そこで、会費は払わないということで入ってもらい、公民館で毎月会議をしている。ところが、高齢化が進み、公民館までも行けないという人も多い。市や保健所、地域の情報がすべてわかるので、回覧文書だけでも誰かに取りに来てくださいますようお願いして、35の町内にはとりあえず、全部情報共有している。

役員も私と同じ年齢の方ばかりなので、後の担い手を見つけることが課題だ。市内の他学区でも担い手が見つからないと聞いている。また、3年前から3世代の活動をと、お子さんと昔遊びをしたり、うどんなどの食事を提供したり、そういうことを3世代で取り組んでいる。

分科会長

男女共同参画や、ダイバーシティと言われてきているが、日本は先進国の中で一番まだ男社会だ。これから10年、本当の意味で男女共同参画していけるような社会にしないとうまくいかないところに来ている。大学入試までは男女平等でも、社会に出ると変わってくるという話もある。

本当に、実現していく社会にしていくことは、別の分科会の話かもしれないが、とても大事なことだ。雇用の話で、リーマンショック以降、

働く人が増えたのは派遣，パート含めて，非正規で，そのほとんどが女性だ。

コミュニティ協議会の話もあったが，地元でのユニットは，婦人会も愛育委員も民生委員もみんな同じ方がされているという状況で消防団も担い手がいない。現場からどう立て直していくのかということが大切だ。

岡山県は日本の中で，非常に求人が多い。有効求人倍率が高い所は景気が良い指標だったが，今は，人手不足で募集しても人が来ないため高くなったりしている。地域をどう維持していく仕組みをつくるのかということだ。

委員

計画策定にあたり，SDGs の視点を取り入れるというよりは，むしろ17 の開発目標をめざした市の総合計画でよいのではないかと思っている。

住んでいる地域は 900 世帯くらいで，老人クラブが 2 つある。3 世代のスポーツ大会などもしているが高齢化は進んでいる。コミュニティを維持しているのはほとんどが高齢者で，地域力を上げるため，防災減災の取組もしている。

先日，地域の自営業の方の話をしたが，若い人たちを受け入れ，仕事をしてもらっても辛抱ができず，向いてないからやっぱり転職する，なかなか続かないと。今の時代，それが決して悪いことではないと思うが，一生懸命働いて我慢して税金を納めて，その税金で自分たちの生活が成り立っている，そういう学校で教えているはずのことが，子どもに実感として身に付いていないと聞いた。子どもに大事なことを，本当に教えられている先生はいるのかということまで言われていた。教育は，ただ勉強を教えるだけではなく，生きていく力を身に付けさせる，そのための社会の仕組みを教える，そして社会に貢献できる人間になろうという気持ちを育てるということが教育なのではないかと。すごく大事なことを言われたのが印象的だった。

地域の中で子どもが育ち，学校教育と合わせて生きる力というものが育っていくように，行政は恐れずにお金を使っていかななくてはいけないと感じている。

また，今，DV 被害などの相談も本当に増えていて，キーワードは女性と子どもと私は捉えているが，SDGs は，誰一人取り残さないという目標で，弱い立場の人間が本当に力を付けていく教育が必要だと思っている。少し力を貸すことで，その人が誰かの力になれる人に育つ仕組みが必要だと思っている。

発達障がいの子どものも増えてきていて，一律の勉強を教えても，その特性によりできない子がいて，一方で，その子にしかできないこともある。教育の方向性を変えないと，今までと同じ教育ではだめだと思う。総合計画にどのように盛り込めるのかわからないが，多様な特性や生き方，働き方，それぞれ自分の人生を全うできるということが軸にないといけないと思う。

分科会長

教育，子育てや，健康医療，福祉の計画にも関係するかもしれないが，今の話はとても大事だと思う。税や年金について，日本の学校教育

の中では、あまり子どもに教えていない。制度を難しく作っている面もあるが、知らない、わからないではいけない。学んだことから自分が役立つことが分かれば良いと思う。

学生がDVの子どもなどに学習支援する取組が他市であり、高校進学をあきらめていた子たちがほとんど進学した。これは教員ではできないこと。こういった話は G7 倉敷教育大臣会合の倉敷宣言であり、SDGs そのもの、一人も取り残さない社会的包摂という視点だ。また、日本では、交通事故死より自殺者が多い、こういう状態を貧困と言わないのか。

SDGs の一つ一つを今回の総合計画に盛り込むならば、倉敷ならではの入れ方も考えるべき。地域で支え合うためにも、全体の計画が市民の方にも分かっていただけることが大事だと思う。

委員 教育は国の基本だ。また、倉敷らしさを発信できるような教育はどういったものかを見直すべきだと思う。

分科会長 今の話も含めて、子どもたちや女性、弱者との関係を SDGs の中でどう位置付けるのかというのも議論ができればと思う。

委員 倉敷に住むこと、暮らすこと、一人一人がどういう生き方をしたいかを問いかける時期だ。就職先についても、事務で安定して、休みが取れるなど、お金を稼ぐための手段でしかなく、これではクオリティの高い仕事はできない。

東京一極集中で、学生は東京に就職する。額面給与や有給消化率も高いが、通勤時間は地方に比べてとても長い。その間、スマホチェックするのが楽しい人生なのか。女性もどんどん集まっているが、出生率が低いのも東京だ。そのような知識や想像力が、今の子どもや 20 代、30 代にあるのか疑問で、学校の勉強だけでなく、豊かな暮らしを送るということはどういうことを考えるべきだ。

今、多くの女性も働いていて、保育所が足りない状況にある。働くのはお金が必要だからで、働きたくて働いているわけではないと思う。

私の世代だと、年金を担う子どもが少なくなり、老後も不安だから蓄財をと考える。お金について詳しく学んでいないから、月に 1 万円、一生懸命パートをして積み立てるが、人生を楽しむ、豊かさを感じることはできない。お金があればいいでなく、自分の生き方や人生をどうしたいのかという意識がないと、日々の生活に漂流しているだけ。本当に生きるということを伝えていく教育が必要。最近、損しているという考えをするが、人のことはどうでもよく、自分の暮らしを豊かにするために、何が必要かを考えるべきだ。

そういった考えをベースに、今まで女性の社会進出といわれてきたが、私は男性の地域への還元が大事だと思う。例えば、私は保護司や PTA 活動、まちづくりなどをやっているが、普通のサラリーマンでは会社の理解がないとできない。

求人倍率が高いということは雇用の需要はあるわけで、もっと魅力ある雇用にならないといけない。地元の企業でも、地域活動に社員をどんどん送り出すための仕掛け作りが必要だ。有給休暇で、社会貢献に関しては、用途限定で追加有休を認めるといったことも考えられる。各々

	<p>の企業で考えがあると思うが、地域とともに生きていく市民を応援する企業や働き方があっても良いと思う。</p> <p>市として、倉敷で暮らすということはどういうことなのか、何が良いのかということをはっきりビジョンとして掲げることが必要ではないか。そのビジョンを基に、産官学連携、コミュニティも含め、皆同じ方向を向いて、少しずつそれに貢献できるような仕掛けや仕組み、働きかけをしていかなければ、ばらばらのままとなり、このまま人が減り続けてしまうのではと危機感を持っている。</p>
分科会長	<p>東京一極集中の話があった。現在、少子高齢化の影響は地方で大きくても、数十年先、一番大変になるのは東京だ。現状の出生率も低く、見守ってくれる人がいない。私は東京で、片道1時間半、30年通勤した。</p>
委員	<p>そのような事実を高校生や大学生は知らない。</p>
分科会長	<p>だから、倉敷スタイルみたいなものを見せていくことが大事だ。市民の方と一緒に、世界に発信できるぐらいの力を倉敷市は持っていると思っている。</p>
委員	<p>倉敷の暮らしがどんなに恵まれているかということを確認にして、倉敷スタイルを確立して、倉敷の良さを伝えることができれば、新卒で一時的に東京に出ていっても、5年、10年たって、帰って来てほしい。外を知って、倉敷の良さを本当に分かって帰ってきてくれるのが一番うれしい。</p>
分科会長	<p>新卒で入社しても、3年以内に30%が辞めるという。ところが、地元に戻るのには世間体が悪く、受け入れ側も整っていないので帰らないのが現状。大学で卒業生名簿を作って、たとえば3年目に状況を聞くようなメールを送るとか、都市から倉敷に帰ってきてもらう方策や受け入れ先の確保が必要。倉敷には輝く企業は多い。</p> <p>次の世代である大学生や高校生、小中学生たちが読んで、わくわくするような総合計画を作る、見せるものの魅力を発信していくということも大切。そうは言っても幸せの基準みたいなことを本気で考え、倉敷はこうだと示す必要がある。生きたところにお金を積極的に使う、メリハリのある計画が作ればよい。</p>
委員	<p>精神性が非常に大事だと思う。倉敷は、市の花がフジ、木がクスノキ、鳥がカワセミ、発信できる大きな三つがある。原点に戻って、やはり教育が一番大事だ。</p>
委員	<p>倉敷スタイルや倉敷モデルといった、皆さんの目に触れる「全国的にすごい市があるんだね」「倉敷市は知っていたけど、もっと市民のためにいろんなことをやっているんだね」という仕組みを一つでも打ち出すことが大事だ。住みよい町ということを向上させ、発信していくことは重要で、しっかりとした戦略を持って取り組む必要があると思う。</p>
委員	<p>私も東京より倉敷が勝るところをしっかりとやるべきだと思う。住みやすいというだけでは若い人には響かないので、平均通勤時間を比較したり、求人倍率なども含めて、しっかりPRしたり、より勝るためのシンボリックな政策を作る必要がある。倉敷は美観地区というイメージだけでなくそういった取組をすべきだ。</p>

委 員	何十年か前に、子どものサッカークラブを作った。未だに続けているが、近年、入る子どもが少なくなって、練習時に親が当番でコーチや監督にコーヒータンナーを入れることをやめた。その結果、すごく入会が増えたという。それだけ若い人は負担に感じていたということ。親同士の仲良くなるツールだったとは思いますが。
分科会長	本来が一番大事にしなければいけないコミュニティの基本だが、「誰かがやっておいてくれればいけれど、私に回ってくるのは嫌」みたいな傾向にある。
委 員	先ほどの、会費を払ってまで役員はしたくないのとイコールのようなところ。
委 員	損をしていると思ってしまうのだろう。頑張れば頑張るほど、周りがねたんで、陰でこそこそされる。嫌な人がいると思うと、関わらないと思う。
分科会長	昔は、家に黒電話 1 台しかなく、どこから、誰からかかってきたかわかっていたが、今は生まれたときから世界中と交信できる。今回の計画では、たとえばスマートシティは何かといったことを含め、受け入れなければいけないもの、人として大切なものは何かを併せて明示していくということが大事だ。人間としての尊厳や、人を慈しむ、助け合う気持ち、コミュニティも含めて 1 人だけでは生きていけないということを理解することが必要だと思う。
委 員	禅の言葉では、即今当処と言うが、今、自分が生きているという、このことに喜びを感じて、感謝をして、そして今を生きるということが、とても大事だ。
委 員	先ほどの、子ども、中学生、高校生がわくわくするような倉敷市の総合計画を作りたいということに大賛成だ。「倉敷ってすごい」「このまちで生まれてよかった」「倉敷大好き」「いったん県外に出るかもしれないけど、最後は倉敷で」というような子どもを育てられるような計画になったらいいと思う。
委 員	メンタルの面でも豊かな暮らしを送りたい。
分科会長	なかなか社会の一つの課題だけを解決すれば済むというような時代ではなくなり、非常に複雑な課題が入り混じって社会全体を覆っている。人口減少、高齢化社会の中で、このまちをどうしていくのか、持続可能な都市にするために SDGs はという話にはなったと思う。今日はありがとうございました。

4. その他

次回の日程について

5. 閉会